

尾道糸崎港



広島県土木建築局港湾漁港整備課

〒730-8511 広島市中区基町10-52

☎082-228-2111(代)、082-228-0976

URL : <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/>

1. 概況

〈沿革〉

尾道糸崎港は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する静穏な水域をもつ良港であり、古くから広島県備後地域と四国及び島しょ部とを結ぶ海上交通の要衝として、重要な役割を果たしてきました。港湾区域は、東西18kmに細長く広がっており、糸崎・尾道・松永の三港区から成り立っています。

〈糸崎港区〉

糸崎港区の背後にある三原市は、山陽道の中央に位置し、古くから主要な宿場、海路の要衝として栄えてきました。

明治32年(1899年)特別貿易港となり、大正11年(1922年)には内務省の指定港に編入されました。昭和年代になると、海岸線への大企業の進出によって公共施設の拡張余地が乏しくなり、昭和36年(1961年)から古浜地先の埋立事業、同37年(1962年)から係留施設の整備を始め、昭和50年(1975年)までに水深4.5m以上の岸壁が8バース整備されました。

この間、昭和23年(1948年)に開港指定を受け、同28年(1953年)に尾道港と合併して、重要港湾尾道糸崎港として発足し、広島県が港湾管理者となりました。

〈尾道港区〉

尾道港区は、背後に浄土寺、西国寺、千光寺の三山を控え、前面に尾道水道を隔てて向島と相対する往古からの天然の良港で、内海の商港として発展してきました。

大正14年(1925年)に尾道鉄道が北備に延びたのを契機として、自動車交通の盛況とあいまって港勢もさらに発展し、昭和2年(1927年)重要港湾に指定され、同年12月には開港指定を受けました。昭和4年(1929年)から改修工事に着手し、現在の主な施設はこのころ整備されています。昭和62年(1987年)には、「尾道糸崎ポータルネッサンス21計画」を策定し、平成9年(1997年)には港湾機能の高度化の核となる旅客ターミナルビルが完成、同22年(2010年)にその周辺地域を「サイクリングポートみなとオアシス尾道」として登録、同26年(2014年)には港湾上屋を活用した「ONOMICHI U2」がオープンするなど賑わいのあるウォーターフロントを創出しています。

〈松永港区〉

松永港区は、背後諸河川から流出された土砂が堆積し、付近の陸岸や島々によって囲まれた遠浅の湾であります。江戸時代には塩田が開かれ、松永塩として名声が高まり、これらは専ら海運による運送が行われていました。また、明治中期

になると木履工業がおこり、原木をアメリカや北海道等から輸移入するため入港する船舶に対する港湾施設整備の必要性が痛感されるようになりました。

昭和29年(1954年)松永市の発足に伴い、港湾整備の機運が急速に高まり、同31年(1956年)には地方港湾の指定を受け、同39年(1964年)には重要港湾尾道糸崎港へ編入され、同41年(1966年)には福山市との合併などによって、松永港整備の体制が整ってきました。昭和43年(1968年)広島県では、松永地区を広島県東部における木材港として整備する方針を決定し、平成9年(1997年)に原木荷役用のドルフィンの整備、同22年(2010年)に臨港道路山波松永線が開通したことで、原木等の港湾関連貨物の円滑な物流が確保されています。

〈現況〉

平成30年(2018年)における取扱貨物量は約190万トンで、主な貨物は原木の輸入や鋼材、セメント、とうもろこしなどといった内貿貨物です。フェリー貨物においては、平成11年5月に開通した「瀬戸内しまなみ海道」の影響により減少を示していますが、依然として、周辺島しょ部との連絡拠点としての重要な役割を果たしています。

整備の状況としては、松永港区の機織地区では、取扱貨物の中心である輸入原木や製材品等の輸送の効率化を図るため、泊地の浚渫等を行っています。また、糸崎港区の貝野地区及び松浜地区においては、内貿貨物に対応する公共ふ頭や都市再開発用地などの整備を行っています。

〈将来計画〉

尾道糸崎港の主要な背後圏である三原市、尾道市及び福山市を中心とする都市圏は、広島県東部における経済・社会の中心的な役割を果たしていますが、今後も地場産業の生産力強化を図ることにより、ますます発展することが期待されています。

このため、尾道糸崎港を「物流関連ゾーン」、「生産ゾーン」、「人流関連・交流拠点ゾーン」、「緑地・レクリエーションゾーン」、「船だまり関連ゾーン」の5つの利用形態に、集約的に配置し、広島県東部の流通拠点機能のより一層の充実により、人・もの・情報に関する交流拠点機能の充実をめざしています。